

みぬま通信 第75号

2018年7月



見沼たんぼくらぶのイベント

平成30年度見沼たんぼくらぶ総会を開催

平成30年4月14日（土）午前、見沼グリーンセンターにおいて「平成30年度総会」を開催しました。総会では「平成29年度事業報告及び決算報告」が承認され、引き続き「役員改選」で「30年度～31年度役員」が選出された後、「30年度事業計画及び予算案」が可決され、平成30年度がスタートしました。

平成30年度～31年度 見沼たんぼくらぶ役員	
会長 新井 一裕（さいたま市中央区）	再任 副会長 厚澤 正栄（さいたま市緑区）
副会長 小野 達二（さいたま市見沼区）	再任 副会長 三上 雅央（さいたま市浦和区）
理事 北原 典夫（さいたま市中央区）	再任 理事 佐々木明男（さいたま市見沼区）
理事 佐藤 清章（さいたま市浦和区）	再任 理事 島田由美子（さいたま市見沼区）
理事 砂長 敏郎（さいたま市桜区）	再任 理事 関根 通雄（さいたま市浦和区）
理事 田母神昭八（さいたま市大宮区）	再任 理事 長澤 義則（さいたま市南区）
理事 西片 昇（さいたま市浦和区）	再任 理事 召田 紀雄（さいたま市西区）
理事 八木 一郎（さいたま市浦和区）	再任 理事 鎌水 和夫（さいたま市北区）
理事 若月きみ子（さいたま市見沼区）	再任 理事 若野 忠男（春日部市）
監事 肥田野徳春（さいたま商工会議所）	再任 監事 矢部 達也（JAさいたま）
顧問 鈴木 柳蔵（県土地水政策課長）	再任

三上 雅央記

見沼ふれあい農園づくり 里芋・八つ頭・生姜栽培

好天に恵まれた5月1日に7回目となる栽培を見沼田んぼ（緑区見沼）で始めました。当日は早朝8時に会員23名が集合して種芋・種生姜の植え付けが行われました。種芋等の量と畝数は里芋50キロで16畝、八つ頭30キロで19畝、生姜40キロと初めての近江生姜20キロで14畝です。八つ頭の畝数がキロ数に比べて多いのは種芋が小さく数が多くあったためと思われます。例年栽培していた京芋は昨年秋の長雨の影響で種芋が手に入りませんでした。

植え付け後の作業は8月2日まで2週間～3週間毎に除草を中心に5回予定されており、5月29日には会員27名と（社福）なくさ大谷作業所15名の参加で草取りを丁寧に行いました。5月末現在、里芋・八つ頭は芽がちらほら出ておりましたが、生姜は草だらけで芽は全く出てない状況です。

参加者は「生姜の収穫が楽しみだわ。近江生姜は形が大きくスライスして酢に漬けて食べると美味しいよね」「草刈りは何回経験しても大変です。いいところは無心になれることですかね。頑張ります。」「いつも秋には大量の収穫になるので今年も期待しています。」などと話していました。

11月には例年どおり福祉団体に寄贈を予定しております。

三上 雅央記



見沼たんぽくらぶのイベント

第73回自然観察ハイキング

見沼たんぽくらぶの自然と史跡を訪ねて

4月24日（土）午後1時、さいたま市北区見沼2丁目の市民の森に見沼たんぽくらぶ会員17名と会員外16名、合わせて33名が集合。5班に分かれ自然観察指導員のガイドで散策。市民の森…見沼代用水西縁・川島橋…神明社…見沼公園…見沼代用水西縁・神明橋…防風林…芝川・神明下橋…芝川・鷺山橋…鷺神社…芝川・鷺山橋…見沼2丁目田圃…市民の森

お伊勢様の神明社

伊勢神宮を總本社とすることで、お伊勢様と呼ばれる神明社では、初めに年号が刻まれた3基の庚申塔が注目をひいた。

サトザクラ咲く見沼公園

ヤマザクラとオオシマザクラの交雑種を改良したサトザクラが二種ありました。

淡い黄緑色の花を咲かせるウコン（鬱金）とピンクの濃い八重桜のカンザン（関山）です。

桜湯の花はカンザンなどの八重桜

サクラの花を塩漬けにしたもの桜漬けとか塩桜と言い、これに熱いお湯を注ぐと、花が開き、独特の香りがします。これを桜湯と言い、お見合いや結婚式などで「お茶を濁す」ことを嫌い、茶の代わりに出されます。

原料の花は、カンザンなど八重桜の七分咲きの花が使われます。

桜漬けは桜湯のほかにも、あんぱんや大福のトッピングにも使われます。



▲ 見沼公園のカンザン（関山）

防風林に咲くクサイチゴ

市民の森の農園の北側に防風林があります。最北端はマテバシイがびっしり並び、内側には市民の森で間伐された多種の樹木があります。その林床に小低木のクサイチゴが広がり、白い花を咲かせていました。

鷺神社の境内林

境内には間隔をおいて、常緑樹のヒノキ・シラカシ・スタジイ・サカキ・ヒサカキが立っていました。その中にポツンと落葉樹のムクロジがありました。

ムクロジは果皮にサポニンを含み、水を泡立てますので、昔は洗剤として使われました。種子は羽根突きの羽の珠や数珠に使われます。

見沼2丁目田圃で春の七草探し

芝川の西側に広がる田植前の田圃の縁で春の七草を見つけて歩きました。

見つけたのはナズナとハハコグサとハコベとコオニタビラコの4種でした。

コオニタビラコは農薬に弱いのですが、これだけ群生していることは、無農薬のお蔭です。

この他、ムラサキサギゴケやセイヨウカラシナ（野菜カラシナの原種）とセイヨウアブラナに人気が集まりました。

よく見ればナズナ咲く垣根かな

芭蕉

カナリアの餌に束ねるハコベ哉

正岡子規

小野 達二 記



▲見沼公園のウコン（鬱金）

見沼たんぼくらぶのイベント

第72回見沼の自然と史跡を訪ねて

3月21日(水・祝)「第72回見沼の自然と史跡を訪ねて」は見沼田圃南部を対象として雨天の中実施しました。参加者は14名。

ピンクの色彩がやや濃いアンギョウザクラ(安行桜)が満開でした。この桜は昭和20年代初頭、川口市安行の田中一郎氏宅の早咲きの綺麗な花びらの木から沖田雄二氏がその穂木を接木して育てたのが始まりとされます。一名「沖田桜」の名も。その他の開花中のものはサンシユ・トサミズキ・ボケ等の樹木、グンバイナズナ・ショカツサイ・ホトケノザ・タチツボスミレ等の野草、また、芝川第1調節池ではキンクロハジロ・カンムリカイツブリ等の冬鳥もあり、かなり多様な観察ができました。なお、事前調査(3/16)では開花中の樹木27種・野草32種・野鳥18種を観察しています。

観察コースは浦和くらしの博物館民家園ー芝川第一調節池ー金崎斜面林保全緑地ー木曾呂富士塚ー見沼通船堀(東縁)ー水神社ー鈴木家住宅ー見沼通船堀(西縁)ーJR東浦和駅です。

雨の中、木曾呂富士塚を経由して山口橋を渡り見沼通船堀の見沼代用水からの元堀(もといり:取入れ口)に来ると見沼通船堀(東縁側)が改修されておりました。元堀から堀の両岸はワイヤーネットで岩石が組み囲まれて補強され、川底には小石が敷き詰められた箇所があり、「堰」も新しく改築されていました。ソメイヨシノの並木はそのままですが、それ以外の堀の両岸にあった樹木類は除去されおり、芝川近くにあったサイカチも除去されています。享保16(1731)年完成した閘門式運河遺構も凡そ300年を経た今日の姿ということになります。西縁側は従前通りです。

水神社は八丁橋の傍にありますが、そこのカワヅサクラ(川津桜)は既に葉桜となっています。鈴木家住宅では2分の1縮尺の復元船を見学して、ソメイヨシノが数輪ほど開花し始めた川筋を後にしてJR東浦和駅でほぼ予定期刻に解散となりました。

若野 忠男記

第74回見沼の自然と史跡を訪ねて

標記自然観察会は5月26日(土)薄曇の中で開催されました。参加者は29名。

JR浦和駅東口より路線バス(9:06発)で大崎園芸植物園停留所まで行き、大崎園芸植物園内で集会の後、4班編成で観察開始です。コースは、さいたま市緑区内の大崎園芸植物園ー大崎公園ー浦和くらしの博物館民家園です。

大崎園芸植物園は農業と市民の交流の場、自然科学の観察の場として約1万本の樹木等を育成しており、隣接の緑の広場と共に市民の憩いの場でもあります。園内には花卉展示温室・花木園・見本庭園・緑の相談所(毎週水・金曜受付)等があります。花卉展示温室(3棟)には多くの熱帯植物があり、丁度、バナナ・カカオの実を観察できました。又、花木園の樹木の花々は一段落でした。一方、様々な草花が賑わいを見せてくれています。絶滅危惧1A種のデンジソウがありました。

次いで、見沼代用水東縁に架かる天神橋を渡り、大崎公園に向かいます。同園は38千m²の敷地に芝生広場・子供動物園・花時計・池・遊具が設けられています。子供動物園はヒツジ・レッサーパンダ・モルモット・チリーフラミンゴ・マナヅル・ガンカモ類などの中・小型動物を展示しています。クジャク舎では雄鳥が羽を広げて迎いられた参加者もいます。11時過ぎには次の観察地を目指し、見沼代用水に架かる大崎橋を渡り、ブルーベリー・梅・桃等の果実が見られる畑の道を選びました。

浦和くらしの博物館民家園は平成7年に開設された市内に残された伝統的な7軒の建物を移設復元し公開している野外博物館であります。この内、1軒は国指定・4軒は市指定の文化財になります。園内の池にはまだ花期には至っていないが古代蓮が植えられています。農家の建物には、かまど・古い農機具類も展示されていますが、その用途等で話題となりました。

展示室では「小さな企画展 見沼の虫たち」としてチョウ・セミ・甲殻類の標本及び写真的展示がありました。 若野 忠男記

見沼たんぼくらぶのイベント

園児たちの菜の花摘み

4月27日、ふれあい農園(3号地)に緑区内のこぐま保育園の園児33名と先生5名の参加による、恒例となった菜の花摘みを行いました。



今年は天候不順の影響もあって菜の花の出来は十分とは言えませんが、園児たちにとってはむしろ作業がしやすかったようです。

途中休憩もなく約1時間の作業でしたが、両手いっぱいにして、家にもって帰りました。5月のようなさわやかな一日を友達と一緒にあって、歓声を上げながら動き回っている子供たちの姿をご家族の皆さんが見たらどんなにかびっくりするだろうと思いました。



たんぼくらぶの農作業には子供連れの若いファミリーがたくさん来てくれます。

子供たちは時として昆虫や草花に夢中になってしまいますが、やがては現在の見沼たんぼをますます賑やかにしてくれることを期待せずにほおられません。今度はコスモスの畑が待っています。また来てください。

佐々木 明男記

見沼たんぼ探訪記

中山神社を訪れる

見沼区の中山神社を4月になって訪れる。地元中川の鎮守様で、創建は崇神天皇の御世2年(紀元前95年)と伝えられている古社である。境内はスギ、ヒノキ、シラカシ・・・等の樹木に包まれ、時々、名のしらぬ野鳥の声が聞こえ、一層の静寂を感じる。

本殿に近寄ると、正面には「御火塚」がある。例年12月8日に行われる「鎮火祭」を行う場所である。焚き終えた炭火の上を素足で歩く火渡りの神事で、無病息災と火防のご神徳が得られる祭である。



本殿の裏に回ると旧本殿が目の前に現れる。さいたま市内では最古の建物とされており、貴重な文化財になっている。この建物は神社建築の祖型といわれる「見世棚造」から、「流造」に移行する社殿変遷の過渡期の建造物でとされ、安土桃山時代のものという。

さらに当社は、大宮区の氷川神社と緑区の氷川女体神社を結ぶ直線上にあり、御沼を形成する広大な神域の中で丁度中間の位置にある。この位置での太陽は、冬至には氷川女体神社の森から昇り、夏至には氷川神社の森に沈む。稻作で重要な暦を正確に把握するための、意図的な配置になっているとのことだ。

ふと注意すると60歳代の男性が、本殿や旧本殿の周りで熱心にメモや写真を撮っている。熱心さから判断すると、歴史に興味を持っている人に違いない。由緒あるこの神社に、魅力を感じて訪れてきたのであろう。

召田 紀雄記

見沼たんぽ水彩スケッチ紀行

清泰寺 見性院殿之墓

清泰寺はJR東浦和駅から徒歩10分、大間木の赤山街道に沿って建てられて見性院の墓が収められている。見性院は武田信玄の娘で、信玄の家臣穴山梅雪の妻となつたが、夫の死後妹の信松院とともに家康に保護されて、江戸の比丘尼屋敷に住み、大牧に200石の地を与えられた。慶長16年（1611年）二代将軍秀忠の侍女お静の方が将軍の子を宿すと、見性院は信松院と力を合わせてお静を守り、男子が生まれると幸松丸と名付けて7歳まで養育した。幸松丸は長じて会津藩主となつた保科正之で、正之は旧恩を感謝して清泰寺に田地を寄進、香華を絶やさなかつたといふ。

現在の墓石は会津藩により安政5年（1858年）に建てたもので、墓地の扉には三つ葉の葵の御紋が刻まれており、会津の人々が名君を育てた見性院を慕っていたことが偲ばれる

絵と解説 八木一郎



大崎温室の蘭室

園芸植物園に付属する温室の一部を構成する蘭の室は、カトレアなど花の美しい洋蘭や、香りをめでる東洋蘭などが多く配置されており、熱帶植物の室とは違った色とりどりの花が良いモチーフを提供してくれる。室内は常に適温に保たれているのも、絵を描く者にとり有り難いことである。



旧坂東家土間の構造

見沼くらしつく館は加田屋新田を開発した坂東家の旧宅をほぼ同位置に復元したもので、寄棟作り茅葺の建物。建築年代は安政4年（1857年）と確認されたが、土間はそれより古くからあつたものとみられる。建物には多くの丸太が用いられており、囲炉裏や大きな竈などが据えられている。上の柱には「八丁ヶ」という火除けの注連縄が掲げられており、毎年正月に鎮守様である熊野神社の祈願を受けて加えられるとのことでの煤煙で変色した数多く結ばれている注連縄からも生活の長い積み重ねが偲ばれる。

見沼たんぽくらぶ会員作品展

見沼散策を楽しんでいたある秋の日、出会つたのがこの風景です。幼いころの日々への郷愁を誘う藁の臭い・・・無造作に積まれた藁の動きの面白さを強調し、又影の部分を思いきり濃くすることで存在感を出しました。

近景から中景、遠景へと視線が自然に導かされることを意識して、畦道が画面奥まで続いているかのように描いてみました。最後に、遠景により遠景観を出すためうすく溶かしたブルーを被せてみました。

見沼・稻わらのある風景
作者 星野 ますみ



見沼たんぽの仲間たちNo. 4 6

未来に残す里山の雑木林・大和田緑地公園

小林正治（さいたま市

みどり愛護会大和田支部）

大和田緑地公園は大宮体育館の南側に在る斜面林で、クヌギやコナラ等の落葉樹主体の雑木林再生地区、絶滅危惧種などの野草保護柵地区、昆虫などの生きものを育てる谷地の池と田んぼ、常緑高木が茂り野鳥が隠れ休む屋敷林、外に面したマント役の常緑樹林帯と、クヌギやコナラの幼樹育成畑地から成り立っています。

名称は公園でも全くの自然型緑地で、みどり愛護会の活動発祥の地でもあります。活動は今年で22年目になり、当初の荒れた暗い緑地の面影は無く、環境学習、体験学習、自然観察、野鳥観察、散策、腐葉土づくり等、四季を通じて森の恵みに与っています。



▲大宮東小の環境学習

見沼たんぽくらぶ雑木林体験 ▼



毎年12月には見沼たんぽくらぶの雑木林体験も行われます。目標は「未来に残す里山の雑木林づくり」です。そのため、地形や地質に応じた植生を育み、雑木林内部を夏の西日や冬の乾燥風から守り、実の生る樹木を大切に育て、希少種や絶滅危惧種の動植物を保護保全し、谷地の水環境を整え、樹木の伐採や枝下ろしは自然環境に合わせ、強精外来野

草を蔓延させない等々、緑地全体の調和と多様性を保つことを基本にしています。近隣の方々や訪問者には緑地の説明をする機会を設けるよう心掛けています。時には、子供を差し置き谷地に侵入するお父さんに注意を促すこともあります。

▼9年目の田植え



大和田緑地公園で確認済みの樹木や野草、生きものの概略は以下の通りです。

◆樹木は小低木から高木まで全部で42科85種で、落葉樹57種、常緑樹28種です。

◆野草は43科160種で在来種が多く、帰化植物はイネ科とキク科の比率が高く全部で22種。

◆動物は、昆虫ではチョウが40種。ガを含めた全貌は不明です。

トンボは19種。ハチ、バッタ、カメムシ甲虫、ハエ、クモ、土中の生物は一部が分かるだけでこれも全貌不明です。

哺乳類はホンドイタチなど5種。

鳥類はカワセミなど46種。

爬虫類はアオダイショウなど10種。

両生類はアズマヒキガエルなど5種。

魚類はモツゴとカダヤシ。

甲殻類はアメリカザリガニ。特にウシガエルとアメリカザリガニは目の敵です

▼カラスアゲハ



▲谷地のカワセミ



見沼たんぼを支える農家さん

「KM フルーツ JAPAN」守屋一隆さん

今、人気のブドウといえば、種なしで皮ごと食べられて歯ざわりがよく、甘くてジューシー、上品な香りが特徴のシャインマスカット。このシャインマスカットを農薬を使わずに栽培しているのが、守屋一隆さんです。

片柳の熊野神社近くの守屋さんのお宅は代々続く農家さん。とは言っても、なんと一隆さんは40歳過ぎまではミュージシャンとして活躍していました。そんな一隆さんが、結婚して子供が生まれたのを機に実家に戻って農業を始めます。そして、短期間での自立を目指して選んだのがブドウの栽培でした。

まずは久喜市にある埼玉県農林総合研究センター（現農業技術研究センター）で3年間研修をしな

がら果樹の基礎を学び、その後シャインマスカットをメインとして、落葉果樹

（冬に葉を落とす果樹。ナシ・ブドウ・モモ・ウメ・クリ等々）と柑橘類の栽培を始めて今年で4年になります。



（シャインマスカット）

あります。でも、だからこそ差別化が図れる、だから手間ひまかけるのは当たり前、とさらりと語る守屋さん。販売は自宅前と片柳コミュニティセン内の染谷農産物直売場での直売、それと野菜の宅配専門会社に卸しています。

栽培では枝の作り方や剪定方法なども従来の型にとらわれず工夫、ブドウに掛けるカサや袋なども選び抜いたものを使用。木の下には稻わらを敷きこんでいますが、より良いと思われるものは積極的に取り入れて試し、常に比較検証を怠りません。それでも2割は病虫害でやられてしまうそうですが、それも想定の内、とのこと。

この時期は朝4時過ぎ、明るくなれば作業を始めるそうです。なぜ落葉果樹を選んだのかと聞くと、だって冬場くらいは休みたいから、

と日に焼けた顔をほころばせた守屋さん。常に先を読んでプランは立てるけれど、プラン通りにはいかない。やりながら臨機応変にアレンジしていくという言葉に、まぶしい初夏の日差しの中、ブドウとのセッションが聞こえてくるようでした。 取材：島田由美子・高橋いずみ 文責：高橋いずみ



（守屋一隆さん）

自宅前の直売（7月下旬から）

見沼区片柳2-1 Tel : 048-684-2221

のぼり旗が出ていれば営業中！

染谷農産物直売所（片柳コミュニティセンタ一内）：土・日 9:15～16:00

菜園クラブ（宅配専門）：050-5881-4605

<http://www.saienclub.com>

見沼たんぼくらぶのイベント案内

秋野菜栽培

2号地（緑区大字見沼484）

「見沼氷川公園の南側」

- ① 9月 1日（土）種蒔き
＊雨天の場合は8日（土）
- ② 9月22日（土）除草、間引き
- ③ 10月 6日（土）除草、間引き、収穫
- ④ 10月27日（土）除草、間引き、収穫
- ⑤ 11月10日（土）収穫
＊第2回以降、雨天順延

時間：10時～12時（9時30分より受付）

申込み：7月13日（金）まで事務局へFAX・葉書・メールなどで、住所・氏名・電話番号・年齢を明記（同居の家族同伴歓迎、氏名・年齢併記）

※会員外は埼玉県土地水政策課に申込み、応募多数の場合は抽選となります。

里芋・八つ頭・生姜栽培

1号地（緑区大字見沼610及び613）

- ⑥ 7月12日（木） ⑦ 8月 2日（木）

時間：8時～11時頃（7時30分より受付）

＊雨天順延

※会員申込者限定。福祉施設へ寄贈。

見沼塾『見沼たんぼの昆虫観察』

7月 7日（土）10時～12時

大宮第二公園休憩ロビー集合

講師：牧林 功 氏（埼玉昆虫談話会）

申込み：当日、集合地で9時30分から受付

交通：大宮駅東口からバス⑧「芝川」下車、北側

大宮発 8:55 or 9:25

見沼の自然と史跡を訪ねて

常泉寺（広島・長崎原爆の火…加田屋新田（ヒガンバナ）…旧坂東家住宅見沼くらしき館

9月24日（月・振休）9時～12時・大宮駅東口、子リスのトトちゃん像周辺集合
(路線バスで「根木輪」へ)

申込み：当日、集合地で8時30分～9時受付

見沼たんぼくらぶ入会を勧めます

見沼たんぼをもっと知りたい

見たんぼの自然にふれてみたい

見沼たんぼで何かしたい

そんな皆さまをお待ちしています！

◆季刊『みぬま通信』を郵送します。

4月・7月・10月・1月発行

◆埼玉県土地水政策課の支援のもと、見沼たんぼ地域の里やまで、様々な体験事業を開催しています。子どもから年寄まで気軽に楽しめるイベントです。

○…見沼ふれあい農園づくり

農地はスタッフが耕運し、畝づくりを済ませ、種蒔き・植付から除草、収穫までの作業です。

「里芋・八つ頭・生姜栽培」や「秋野菜栽培」を楽しみ、福祉施設にも寄贈しています。

○…自然観察ハイキング

自然観察指導員のガイドで、年4回、史跡を巡りながら、花や鳥などを見て回ります。

○…見沼たんぼ清掃ボランティア

○…斜面林の体験学習

○…見沼塾—見沼たんぼ地域の自然や文化を学ぶ講座

◆年会費 個人（同居の家族単位）・団体・企業とも1口￥1,000以上
(団体・企業は3口以上)

みぬま通信第75号

発行日 平成30年月7月1日

発行所 見沼たんぼくらぶ

〒337-0053 さいたま市見沼区大和田町
1-2124-3 小野方

TEL・FAX (048) 683-1764

E-mail t.ono@axel.ocn.ne.jp

URL <http://minumatanbo.web.fc2.com/>

© 2018 Minuma Tuusin